

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：山里勝己	
科目名(英語)	Seminar in American Literature I			メールアドレス：ka.yamazato@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	前期	1～2	学長室	

1. 授業の概要

修士論文作成に向けての指導を行う。研究の意味、研究者のありかたなどをまずは議論する。それからプロポザルの作成に向けた基礎的なリサーチ、資料収集、先行研究の調査・分析、文献一覧作成、テーマを選択するための学生による報告と双方向のディスカッションを中心とした指導を行う。

2. 到達目標

修士課程レベルの研究手法、文献収集、文献分析、先行研究の評価を行い、修士論文テーマを選択する。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 Introduction
- 第 2 週 Research and scholarship
- 第 3 週 Research and scholarship
- 第 4 週 Bibliography
- 第 5 週 Bibliography
- 第 6 週 Topic and thesis
- 第 7 週 Topic and thesis
- 第 8 週 A shorty paper due
- 第 9 週 Presentations by students
- 第 10 週 Presentations by students
- 第 11 週 Tentative titles and works to be discussed in the MA thesis
- 第 12 週 In-office conferencing
- 第 13 週 In-office conferencing
- 第 14 週 In-office conferencing
- 第 15 週 Presentations by students

4. テキスト・参考文献

- (1) *MLA Handbook, Chicago Manual* 等の論文執筆に必要なツール
- (2) 修士論文の対象となる文学作品等

5. 準備学習

特にないが、研究者としての基本的な要件などを記述した文献を読んでおくことが望ましい。

6. 成績評価の方法

- ・リサーチ、*MLA Handbook* の理解 30点
- ・オーラル・プレゼンテーション 20点
- ・リサーチ・ペーパー 50点
- ・合計 100点満点

7. 履修の条件：

特にない。

8. その他

特にない。

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：山田 均	
科目名(英語)	Seminar on Language and Culture I			メールアドレス：yamathai@ona.att.ne.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	3	509	月5、水5

1. 授業の概要

修士論文の作成を指導する。
一つのテーマを立てることから、資料収集、その整理、論文の骨格作り、実際の執筆、註のつけ方など、論文というかたちで高度な研究内容を表現するための一切を指導する。
一応、時間割に演習の時間（火曜2時限目）をさだめてはいるが、実際には学生個人々人の個人指導であり、講師との相談で時間を定めて個人指導を行う。

2. 到達目標

修士論文の執筆について、その構成をきめ、2万字程度のクロッキーにまとめる。

3. 授業の計画と内容

- 第 1、2 週 イントロダクション
- 第 3、4 週 論文とは
- 第 5、6 週 テーマの定め方
- 第 7、8 週 テーマの搾り方
- 第 9、10 週 文献の集め方
- 第 11、12 週 文献の整理の仕方
- 第 13、14 週 研究ノートの作り方
- 第 15、16 週 研究ノートの実際
- 第 17、18 週 さまざまな資料
- 第 19、20 週 さまざまな資料の収集と整理に関して
- 第 21、22 週 論文の構成① 大項目の決定
- 第 23、24 週 論文の構成② 中項目の決定
- 第 25、26 週 論文の構成③ 小項目の決定
- 第 27～29 週 論文の構成④ 第一クロッキー
- 第 30 回 まとめ

4. テキスト

とくになし

参考文献

とくになし。自分専門分野はもちろん、近接分野を含めて多読を心がけること

5. 準備学習

とくになし。研究の進捗がなくても、研究室での対話にはでてくること。

6. 成績評価の方法（明記すること。学生が一見して理解できる評価方法にすること。）

論文作成上の各段階における出来具合で評価する。
オリジナリティ、参考文献、構成、作法、深度にそれぞれ 20 点の割合で評価する。

7. 履修の条件：

とくになし

8. その他

基本的には放任主義であるが、密なる対話が前提となった放任であるから、誤解のないようにお願いします。対話の時間は惜しみません。

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：住江 淳司	
科目名(英語)	Seminar on Language and Culture I			メールアドレス：j.sumie@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	2	505	火 2 ,木 1

1. 講義内容

まず、修士論文のテーマを定める。そのテーマに即した先行研究に関する文献を集める方法から始め、図書館のレファレンスコーナーを活用する。演習 I では研究史を作成させるところまでを指導する。

2. 到達目標

研究史を完成させることを、まず演習 I の到達目標とする。

3. 講義予定

第 1 週	オリエンテーション	第 16 週	1 次資料の探索指導 3
第 2 週	文献探索指導 1	第 17 週	1 次資料の探索指導 4
第 3 週	文献探索指導 2	第 18 週	3 次資料の探索指導 1
第 4 週	文献探索指導 3	第 19 週	3 次資料の探索指導 2
第 5 週	文献探索指導 4	第 20 週	3 次資料の探索指導 3
第 6 週	文献探索指導 5	第 21 週	3 次資料の探索指導 4
第 7 週	文献探索指導 6	第 22 週	研究史の作成 1
第 8 週	修士論文テーマ発表の準備	第 23 週	研究史の作成 2
第 9 週	テーマ発表の際の指摘事項確認	第 24 週	研究史の作成 3
第 10 週	2 次資料の分析 1	第 25 週	研究史の作成 4
第 11 週	2 次資料の分析 2	第 26 週	研究史の作成 5
第 12 週	2 次資料の分析 3	第 27 週	研究史の作成 6
第 13 週	2 次分析の資料 4	第 28 週	研究史と小括の作成 1
第 14 週	1 次資料の探索指導 1	第 29 週	研究史と小括の作成 2
第 15 週	1 次資料の探索指導 2	第 30 週	研究史と小括の作成 3

4. テキスト

平野 健一郎 『国際文化論』 東京大学出版会、2008 年。

参考文献

特になし。

5. 準備学習

事前に演習で発表する課題を指導教員に送付する。

6. 評価方法

論文作成段階における出来具合で評価する。具体的には、オリジナリティ、研究史の完成度、本文の構成、注記の付け方、参考文献の完成度にそれぞれ 20 点の割合で評価する。

7. 履修要件

中南米の文化事象に関することをテーマにしていること。

先行研究の外国語（ポルトガル語、スペイン語、英語）文献を読めるだけの語学力が必要である。

8. その他

特になし。

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：渡慶次正則	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	5	512	月曜日6時限

1. 授業の概要

研究テーマを決定し、実証的データを収集できるようにする。修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に備える。

2. 到達目標

- (1) 研究テーマを決定する。
- (2) データの収集方法と分析方法を決定する。
- (3) 修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に十分に備える。

3. 授業の計画と内容

(前期)

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 第1週 | オリエンテーション |
| 第2週 | リサーチの種類や果たす役割や重要性について
テーマについて考える |
| 第3週 | リサーチ・デザインについて |
| 第4週 | 質的研究について(1) |
| 第5週 | 質的研究について(2) |
| 第6週 | 量的研究について(1) |
| 第7週 | 量的研究について(2) |
| 第8週 | テーマの選択について |
| 第9週 | テーマの決定 |
| 第10週 | リサーチ・プロポーザル下書き(データ収集方法) |
| 第11週 | リサーチ・プロポーザル下書き作成(データ分析方法) |
| 第12週 | リサーチ・プロポーザル下書き作成(文献) |
| 第13週 | リサーチ・プロポーザル下書き作成(文献) |
| 第14週 | リサーチ・プロポーザル下書き作成(序論) |
| 第15週 | リサーチ・プロポーザル下書き完成、テーマ発表の準備 |

(後期)

- | | |
|------|-------------|
| 第1週 | オリエンテーション |
| 第2週 | 文献研究の発表(1) |
| 第3週 | 文献研究の発表(2) |
| 第4週 | データ収集方法の検討 |
| 第5週 | データ収集方法の決定 |
| 第6週 | データ収集の準備 |
| 第7週 | データ収集と倫理 |
| 第8週 | 文献発表(3) |
| 第9週 | 文献発表(4) |
| 第10週 | 文献発表(5) |
| 第11週 | データ収集 |
| 第12週 | データ収集 |
| 第13週 | データ収集 |
| 第14週 | データ収集 |
| 第15週 | 1年次発表の準備と評価 |

4. テキスト

参考文献
随時指定

5. 準備学習

事前に演習で発表する課題を指導教員に送付する。

6. 成績評価の方法

リサーチ・プロポーザルやゼミへの取り組みで評価

7. 履修の条件：

事前に研究テーマについて概ね指導教員と相談をしておく。

8. その他

特になし。

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	1-2	501	月曜日 6 限、木曜日 6 限

1. 授業の概要

理論言語研究の対象としてのアジアの言語、特に日本語と中国語の統語構造、意味解釈についての知識を習得する。

2. 到達目標

修士論文で取り上げる内容を決定し、論文概要を作成する。

3. 授業の計画と内容

前学期

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 日本語を学ぶ際の困難さ：
- 第 3 週 日中比較統語構造 (1)
- 第 4 週 日中比較統語構造 (2)
- 第 5 週 日中比較統語構造 (3)
- 第 6 週 日中比較統語構造 (4)
- 第 7 週 日中比較統語構造 (5)
- 第 8 週 可能性のある修士論文のテーマ
- 第 9 週 修士論文テーマ計画発表会にむけて
- 第 10 週 日本語助詞の習得 (1)
- 第 11 週 日本語助詞の習得 (2)
- 第 12 週 日本語助詞の習得 (3)
- 第 13 週 日本語助詞の習得 (4)
- 第 14 週 日本語助詞の習得 (5)
- 第 15 週 前期のまとめと後期への展望

後学期

- 第 1 週 第 2 言語としての日本語 (1)
- 第 2 週 第 2 言語としての日本語 (2)
- 第 3 週 第 2 言語としての日本語 (3)
- 第 4 週 第 2 言語としての日本語 (4)
- 第 5 週 第 2 言語としての日本語 (5)
- 第 6 週 第 2 言語としての日本語 (6)
- 第 7 週 修士論文のテーマ決定に向けて (1)
- 第 8 週 修士論文のテーマ決定に向けて (2)
- 第 9 週 修士論文のテーマ決定に向けて (3)
- 第 10 週 修士論文のテーマ決定に向けて (4)
- 第 11 週 リサーチ・ペーパーとしての修士論文 (1)
- 第 12 週 リサーチ・ペーパーとしての修士論文 (2)
- 第 13 週 リサーチ・ペーパーとしての修士論文 (3)
- 第 14 週 論文概要作成 (1)
- 第 15 週 論文概要作成 (2)

4. テキスト

- ①Huang, C.-T. et al. (2009) *The Syntax of Chinese*. Cambridge, Cambridge University Press.
- ②Shibatani, Masayoshi (1990) *The Languages of Japan*. Oxford: Oxford University Press.

参考文献

講義中に随時紹介するが、主なものを挙げておく。

張麟声(2007) 『中国語話者のための日本語教育研究入門』大阪：大阪公立大学出版会

5. 準備学習

毎回の授業でテキストの担当範囲を決め、内容を要約し問題点を指摘するので、予め準備しておく。

6. 成績評価の方法

- クラスでのプレゼンテーション 50 点
- 期末報告レポート (この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する) 50 点
- 合計 100 点

7. 履修の条件：

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	言語文化研究演習Ⅱ			担当教員：山里 勝己	
科目名(英語)	Seminar in American Literature II			メールアドレス：ka.yamazato@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定 人数	研究室	オフィスアワー
4	2	後期	1～2	学長室	

1. 講義内容

言語文化演習Ⅰに引き続き、修士論文作成の指導を行う。テーマのさらなる絞り込み、方法論の確定、参考・引用文献一覧の厳密な検討、資料収集、先行研究の批判的検討、論文執筆を、双方向のディスカッションを中心とした指導を行う。

2. 到達目標

修士課程レベルの研究手法、文献収集、文献分析、先行研究の評価を行い、修士論文テーマを具体的に絞り込む。

3. 授業の内容と計画

第1週	Introduction
第2週	Discussion of the text/works to be discussed in the thesis
第3週	Discussion of the text/works to be discussed in the thesis
第4週	Writing the thesis; issues/problems in writing the thesis
第5週	Writing the thesis; issues/problems in writing the thesis
第6週	Writing the thesis; issues/problems in writing the thesis
第7週	Writing the thesis; issues/problems in writing the thesis
第8週	Writing the thesis; issues/problems in writing the thesis
第9週	Submission of the first draft; issues in writing the thesis
第10週	Review of the first draft and revision/discussion of issues
第11週	Writing the thesis
第12週	Writing the thesis
第13週	Writing the thesis
第14週	Writing the thesis
第15週	Presentation and final review
第16週	～30週

4. テキスト・参考文献

修士論文の対象となる文学作品等と先行研究一覧

5. 準備学習

修士論文で取りあげる作品を読破しておくこと。

6. 成績評価の方法

・オーラル・プレゼンテーション	20点
・修士論文	80点
合計	100点満点

7. 履修条件：特になし。

8. その他

自立したリサーチ、誠実な情報操作、国際基準に従った論文作成、独創的な論文を期待したい。

成績評価の方法（明記すること。学生が一見して理解できる評価方法にすること。）

科目名	言語文化研究演習Ⅱ			担当教員：山田 均	
科目名(英語)	Seminar on Language and Culture II			メールアドレス：yamathai@ona.att.ne.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	3	509	月5、水5

1. 授業の概要

演習Ⅰに引き続き、修士論文の作成を指導する。
一つのテーマを立てることから、資料収集、その整理、論文の骨格作り、実際の執筆、註のつけ方など、論文というかたちで高度な研究内容を表現するための一切を指導する。
一応、時間割に演習の時間（火曜2時限目）をさだめてはあるが、実際には学生個々人との個人指導であり、講師との相談で時間を定めて個人指導を行う。

2. 到達目標

論点のくっきりした、論旨明快で、注記・参考文献の整った、完成度の高い修士論文を完成させる。

3. 授業の計画と内容

第 1～15 回 クロッキーに従って、各章の執筆
第 16～20 回 注と参考文献の検討
第 21～25 回 論文全体の仕上げ
第 26～30 回 口頭発表やまとめの指導

4. テキスト

とくになし

参考文献

とくになし。自分専門分野はもちろん、近接分野を含めて多読を心がけること

5. 準備学習

とくになし。研究の進捗がなくても、研究室での対話にはでてくること。

6. 成績評価の方法（明記すること。学生が一見して理解できる評価方法にすること。）

論文作成上の各段階における出来具合で評価する。
オリジナリティ、参考文献、構成、作法、深度にそれぞれ 20 点の割合で評価する。

7. 履修の条件：

とくになし

8. その他

基本的には放任主義であるが、密なる対話が前提となった放任であるから、誤解のないようにお願いします。対話の時間は惜しみません。

科目名	言語文化研究演習Ⅱ			担当教員：住江 淳司	
科目名(英語)	Seminar on Language and Culture II			メールアドレス：j.sumie@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定 人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	2	505	火 2、金 2

1. 授業の概要

修士論文の研究史を完成させ、中間発表を経て、修士論文を完成させることを最終目的とする。

2. 到達目標

修士論文を完成させ、口頭試問に合格できる準備を行う。

3. 講義予定

第1週	オリエンテーション	第16週	1次資料の探索指導	3
第2週	文献探索指導 1	第17週	1次資料の探索指導	4
第3週	文献探索指導 2	第18週	3次資料の探索指導	1
第4週	文献探索指導 3	第19週	3次資料の探索指導	2
第5週	文献探索指導 4	第20週	3次資料の探索指導	3
第6週	文献探索指導 5	第21週	3次資料の探索指導	4
第7週	文献探索指導 6	第22週	本文の作成	1
第8週	修士論文テーマ発表の準備	第23週	本文の作成	2
第9週	テーマ発表の際の指摘事項確認	第24週	本文の作成	3
第10週	2次資料の分析 1	第25週	本文の作成	4
第11週	2次資料の分析 2	第26週	注記の作成	5
第12週	2次資料の分析 3	第27週	注記の作成	6
第13週	2次分析の資料 4	第28週	参考文献と小括の作成	1
第14週	1次資料の探索指導 1	第29週	参考文献と小括の作成	2
第15週	1次資料の探索指導 2	第30週	修士論文の最終チェック	3

4. テキスト

小池洋一著 『図説ラテンアメリカ』, 日本評論社, 1999年。

参考書

国本伊代・中川文雄編著 『ラテンアメリカ研究への招待』, 新評論, 1997年。

5. 準備学習

事前に演習で発表する課題を指導教員に送付する。

6. 評価方法

論文作成上の各段階の進捗状況で評価する。

具体的には、研究史の出来具合、構成、理論面の構築度、注記、参考文献などそれぞれに20点の割合で評価する。

7. 履修要件

中南米の文化事象に関することをテーマにしていること。

中南米の文化を扱うには、必要な外国語[ポルトガル語、スペイン語、英語]の読解力に関する知識があること。

8. その他

特になし。

科目名	言語文化研究演習 II			担当教員：渡慶次正則			
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture II			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー		
4	2	通年	5	512	月曜日 6 時限		
<p>1. 授業の概要 修士論文の研究・プロポーザルを完成させ、中間発表を経て、修士論文を完成させることを目的とする。</p> <p>2. 到達目標 (1) 修士論文中間発表や最終発表に備える。 (2) 修士論文を完成する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(前期)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション</p> <p>第 2 週 データの収集方法と分析方法について</p> <p>第 3 週 データ収集開始及び経過報告</p> <p>第 4 週 データ収集と経過報告</p> <p>第 5 週 データ収集終了</p> <p>第 6 週 データの分析</p> <p>第 7 週 データの分析</p> <p>第 8 週 調査方法の下書き</p> <p>第 9 週 調査結果の下書き</p> <p>第 10 週 文献の下書き</p> <p>第 11 週 文献の下書き</p> <p>第 12 週 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (1)</p> <p>第 13 週 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (2)</p> <p>第 14 週 中間発表の準備</p> <p>第 15 週 講義のまとめ</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(後期)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション</p> <p>第 2 週 中間発表の反省</p> <p>第 3 週 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 4 週 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 5 週 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 6 週 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 7 週 序論の完成</p> <p>第 8 週 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 9 週 修士論文のスタイル確認</p> <p>第 10 週 結論の下書き</p> <p>第 11 週 最終的な修正と推敲</p> <p>第 12 週 最終的な修正と推敲</p> <p>第 13 週 最終的な修正と推敲</p> <p>第 14 週 最終的な修正と推敲</p> <p>第 15 週 修士論文全体の推敲、完成</p> </td> </tr> </table> <p>4. テキスト 参考文献 随時指定</p> <p>5. 準備学習 事前に修士論文の原稿を指導教員に送付する。</p> <p>6. 成績評価の方法 修士論文とその作成過程で総合的に評価。</p> <p>7. 履修の条件： 言語文化研究演習 I を終了する事</p> <p>8. その他 特になし</p>						<p>(前期)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション</p> <p>第 2 週 データの収集方法と分析方法について</p> <p>第 3 週 データ収集開始及び経過報告</p> <p>第 4 週 データ収集と経過報告</p> <p>第 5 週 データ収集終了</p> <p>第 6 週 データの分析</p> <p>第 7 週 データの分析</p> <p>第 8 週 調査方法の下書き</p> <p>第 9 週 調査結果の下書き</p> <p>第 10 週 文献の下書き</p> <p>第 11 週 文献の下書き</p> <p>第 12 週 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (1)</p> <p>第 13 週 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (2)</p> <p>第 14 週 中間発表の準備</p> <p>第 15 週 講義のまとめ</p>	<p>(後期)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション</p> <p>第 2 週 中間発表の反省</p> <p>第 3 週 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 4 週 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 5 週 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 6 週 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 7 週 序論の完成</p> <p>第 8 週 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 9 週 修士論文のスタイル確認</p> <p>第 10 週 結論の下書き</p> <p>第 11 週 最終的な修正と推敲</p> <p>第 12 週 最終的な修正と推敲</p> <p>第 13 週 最終的な修正と推敲</p> <p>第 14 週 最終的な修正と推敲</p> <p>第 15 週 修士論文全体の推敲、完成</p>
<p>(前期)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション</p> <p>第 2 週 データの収集方法と分析方法について</p> <p>第 3 週 データ収集開始及び経過報告</p> <p>第 4 週 データ収集と経過報告</p> <p>第 5 週 データ収集終了</p> <p>第 6 週 データの分析</p> <p>第 7 週 データの分析</p> <p>第 8 週 調査方法の下書き</p> <p>第 9 週 調査結果の下書き</p> <p>第 10 週 文献の下書き</p> <p>第 11 週 文献の下書き</p> <p>第 12 週 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (1)</p> <p>第 13 週 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (2)</p> <p>第 14 週 中間発表の準備</p> <p>第 15 週 講義のまとめ</p>	<p>(後期)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション</p> <p>第 2 週 中間発表の反省</p> <p>第 3 週 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 4 週 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 5 週 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 6 週 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 7 週 序論の完成</p> <p>第 8 週 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 9 週 修士論文のスタイル確認</p> <p>第 10 週 結論の下書き</p> <p>第 11 週 最終的な修正と推敲</p> <p>第 12 週 最終的な修正と推敲</p> <p>第 13 週 最終的な修正と推敲</p> <p>第 14 週 最終的な修正と推敲</p> <p>第 15 週 修士論文全体の推敲、完成</p>						

科目名	言語文化研究演習 II			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture II			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	1	501	月曜日6限、木曜日6限

1. 授業の概要

論文概要に基づいて修士論文を執筆し、中間発表会を経て、完成させる間で指導を行う。

2. 到達目標

特に中国における日本語指導のあり方を見直し、日本語研究に基づいてより効果的な指導法を考案することを目標とする。

3. 授業の計画と内容

前学期

- 第1週 オリエンテーション：演習Ⅰの振り返り
- 第2週 アンケート結果の再検討
- 第3週 先行研究の批判的検討（1）
- 第4週 先行研究の批判的検討（2）
- 第5週 先行研究の批判的検討（3）
- 第6週 更なるデータ収集（1）
- 第7週 更なるデータ収集（2）
- 第8週 更なるデータ収集（3）
- 第9週 データの分析（1）
- 第10週 データの分析（2）
- 第11週 データの分析（3）
- 第12週 修士論文の主な主張決定（1）
- 第13週 修士論文の主な主張決定（2）
- 第14週 中間発表会にむけて（1）
- 第15週 中間発表会にむけて（2）

後学期

- 第1週 修士論文作成（1）：章構成
- 第2週 修士論文作成（2）：先行研究批判
- 第3週 修士論文作成（3）：テーマ確認
- 第4週 修士論文作成（4）：新たな主張
- 第5週 修士論文作成（5）：考えられる反論
- 第6週 修士論文作成（6）：主張の強化
- 第7週 修士論文作成（7）：主張の更なる検証
- 第8週 修士論文作成（8）：データ検討
- 第9週 修士論文作成（9）：データ確認
- 第10週 修士論文作成（10）：1章完成
- 第11週 修士論文作成（11）：2章完成
- 第12週 修士論文作成（12）：3章完成
- 第13週 修士論文作成（13）：序論・結論完成
- 第14週 修士論文確認：参考文献、注釈確認
- 第15週 修士論文最終確認、提出

4. テキスト

授業において適宜紹介する。

参考文献

授業において適宜紹介する。

5. 準備学習

毎回の授業で修士論文執筆の進捗状況を確認するので、確実に、着実に進めておく。

6. 成績評価の方法（明記すること。学生が一見して理解できる評価方法にすること。）

クラスでの修士論文執筆の経過報告
修士論文の内容と最終審査

50点
50点
合計100点

7. 履修の条件

言語文化研究演習Ⅰを履修済みであること。

8. その他

特になし。

科目名	言語学特論 I			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Special Lectures in Linguistics I			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1、2	前期	1-2	501	月曜日6限、木曜日6限

1. 授業の概要

理論研究の対象としての言語に関する知識、あるいは理論言語学の分野で問題になる様々な現象を取り上げ、教授する。

2. 到達目標

理論言語学の研究に関する方法論を身につけ、日本語、中国語、英語をはじめとする世界の様々な言語の諸現象に注目し、関心を深める。

3. 授業の計画と内容

- 第1週 Morphology: The structure of words
- 第2週 Syntax I: Argument structure and phrase structure
- 第3週 Syntax II: Syntactic dependencies
- 第4週 Syntax III: The distribution of verbal forms
- 第5週 Syntax III: The distribution of verbal forms
- 第6週 Semantics I: Compositionality
- 第7週 Semantics II: Scope
- 第8週 Semantics III: Cross-categorial parallelisms
- 第9週 Acquisition of meaning
- 第10週 Phonetics: The sound of language
- 第11週 Phonology I: Basic principles and methods
- 第12週 Phonology II: Phonological representations
- 第13週 Phonology III: Explanation and constraints in phonology
- 第14週 Acquisition of phonetics and phonology
- 第15週 Second language acquisition
- 第16週 学期のまとめ

4. テキスト

Fromkin, Victoria A. et al. (2000) *Linguistics: An Introduction to Linguistic Theory*. Malden, MA: Blackwell Publishers,

参考文献

授業において適宜紹介する。

5. 準備学習

毎回の授業で指名された受講者が担当範囲を要約し、問題点を指摘するので、各自準備をしておく。

6. 成績評価の方法

クラスでのプレゼンテーション 50点
 期末報告レポート（この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する） 50点
 合計 100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	言語学特論 II			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Special Lectures in Linguistics II			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1、2	後期	1-2	501	月曜日6限、木曜日6限

1. 授業の概要

理論研究の対象としての言語に関する知識、特に統語理論に関する文献を読み、統語理論的な分析の方法論を教授する。

2. 到達目標

統語理論研究に関する方法論を身につけ、日本語、中国語、英語をはじめとする世界の様々な言語の諸現象を比較・対照し、共通点、相違点を見つけ、関心を深める。

3. 授業の計画と内容

- 第1週 The scientific study of language I
- 第2週 The scientific study of language II
- 第3週 Diagnostic for syntactic structure I : Structure and meaning
- 第4週 Diagnostic for syntactic structure II : Verb phrase and sentence
- 第5週 Diagnostic for syntactic structure III : Specifiers
- 第6週 Lexical projections and functional projections I
- 第7週 Lexical projections and functional projections II
- 第8週 Lexical projections and functional projections III
- 第9週 Lexical projections and functional projections IV
- 第10週 Refining structures I : The structure of a sentence
- 第11週 Refining structures II: Building structure by merge and move
- 第12週 Refining structures III : Meaning relations and structure
- 第13週 The periphery of the sentence I : Constructing the periphery of the sentence
- 第14週 The periphery of the sentence II : How far can you move?
- 第15週 The periphery of the sentence III : The periphery of non-finite clauses
- 第16週 学期のまとめ、期末試験

4. テキスト

Haegeman, Liliane (2006) *Thinking Syntactically: A Guide to Argumentation and Analysis*. Malden, MA :Blackwell Publishing,

参考文献

授業において適宜紹介する。

5. 準備学習

毎回の授業で指名された受講者が担当範囲を要約し、問題点を指摘するので、各自準備をしておく。

6. 成績評価の方法

クラスでのプレゼンテーション 50点
 期末報告レポート（この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する） 50点
 合計100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	英文学特論			担当教員：瀬名波 榮喜	
科目名(英語)	English Literature				
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	2～3	非常勤控室	授業終了後・アポイントメント

1. 講義内容

イギリスロマン派詩人ワーズワースとコウルリッジの詩論と作品を中心に研究する。ただし、他のロマン派詩人にも言及する。特にその背景となったフランス革命や人間と自然との関係を論じたい。本講義は、作品と詩人の生きた時代精神、政治・宗教的思想との関係そして作品の現代性等の研究を目的とするもので、その成果を期待する。

2. 到達目標

ロマンティシズムのコンセプトとロマン派作品の鑑賞能力を高めその特長を理解する。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 Introduction : Political and industrial background of the Romantic Movement
- 第 2 週 Preface to the Second Edition of the *Lyrical Ballads*
- 第 3 週 Lucy Poems
- 第 4 週 //
- 第 5 週 //
- 第 6 週 Goody Blake and Harry Gill, The Thorn, The Idiot Boy, etc.
- 第 7 週 Anecdote for Fathers, We are Seven, Expostulation and Reply, The Tables Turned, etc.
- 第 8 週 Lines written a few miles above Tintern Abbey
- 第 9 週 //
- 第 10 週 The Brothers, Michael
- 第 11 週 //
- 第 12 週 The Rime of the Ancient Mariner
- 第 13 週 //
- 第 14 週 //
- 第 15 週 Oral presentation
- 第 16 週 まとめ・期末試験

4. テキスト

Romantic Poetry, ed. Michael O'Neil & Charles Mahony, 2008

参考書

参考文献目録は、授業開始日にクラスで配布する。

5. 準備学習

6. 評価方法

- ・クラス・ディスカッション 20点
- ・口頭発表 30点
- ・リサーチ・ペーパー 50点
- ・合計 100点満点

7. その他

クラスと平行して参考文献リストの研究と図書を数多く読むこと。また、10～15頁のリサーチ・ペーパーを提出し、それを最終日に口頭発表すること。

科目名	米文学特論			担当教員：山里勝己	
科目名(英語)	Contemporary American Nature Poetry			メールアドレス：ka.yamazao@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定 人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	2～3	414	

1. 講義内容

20世紀後半（1950年以降）から現在にいたる現代アメリカ自然詩を概観する。また、アメリカ現代環境文学、環境思想についても分析、研究を行う。

2. 到達目標

現代アメリカ自然詩をエコクリティシズムを駆使して分析、整理できるようになること。

3. 授業の内容と計画

第1週	Introduction
第2週	Gary Snyder
第3週	Gary Snyder
第4週	Gary Snyder
第5週	Gary Snyder
第6週	Wendell Berry
第7週	Wendell Berry.
第8週	Wendell Berry
第9週	Selected Works
第10週	Selected Works
第11週	Selected Works
第12週	Ecocriticism
第13週	Ecocriticism
第14週	Ecocriticism
第15週	Review

4. テキスト・参考文献

ハンドアウトを多用する。PPTを用いた授業も行う。

5. 準備学習

授業で取りあげる詩人の伝記や作品を多く読むこと。

6. 成績評価の方法

・クラスでのディスカッション	20点
・オーラル・プレゼンテーション	30点
・リサーチ・ペーパー	50点
・合計	100点満点

7. 履修条件

特にない。

8. その他

特にない。

科目名	地域言語学特論 I			担当教員 :	
科目名(英語)	Special Lectures in Area Linguistics I			メールアドレス :	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定 人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期			講義終了後または予約による。

1. 講義内容

琉球語, 日本語, 韓国語, 英語等の特定言語研究に関する方法論を研究する。音声・音韻・語形成, 統語構造, 談話構造, 意味の構造などが中心的話題となる。また, 時代的には20世紀初頭から今日までとなる。

2. 到達目標

3. 授業の計画と内容

- | | | |
|------|-------|------|
| 第1週 | 言語音 | |
| 第2週 | 音韻 | |
| 第3週 | 音節 | |
| 第4週 | 韻律 | |
| 第5週 | 語 | |
| 第6週 | 語形成 | |
| 第7週 | 語彙 | |
| 第8週 | 意味 | 中間試験 |
| 第9週 | 意図 | |
| 第10週 | 文・節 | |
| 第11週 | 句 | |
| 第12週 | 品詞 | |
| 第13週 | 普遍文法 | |
| 第14週 | 研究発表1 | |
| 第15週 | 研究発表2 | |
| 第16週 | 期末試験 | |

4. テキスト

クラスにおいて適宜配布する。

参考書

de Saussure, Jasperson, Bloomfield, Sapir, Jakobson, Hockett, Pike, Fries, Chomsky, Lakeoff 等の著作を含む書及び同時代の和書。

5. 準備学習

6. 評価方法

下記のとおり	
課題レポート等	50点
期末報告論文	50点
合計	100点

7. その他

学期末に使用する①タームペーパー②言語の音声・音韻や文法・語彙等の事項を学習するための教材, 及び適宜与えられるブックレポートは重要な評価の対象となる。

科目名	地域言語学特論II			担当教員：	
科目名(英語)	Special Lectures in Area Linguistics II			メールアドレス：	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定 人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期			講義終了後または予約による。

1. 講義内容

社会言語学的視点から特定言語の多様性について研究する。地域社会、年齢、職業、集団、地位、性別、教養、親密度等の要因で言語がどのように変化するかが中心的な話題となる。また、複数の言語が接触することによって起こる現象にも触れる。

2. 到達目標

3. 講義予定

- 第 1 週 言語と方言と個人語
- 第 2 週 地域的方言
- 第 3 週 社会的方言
- 第 4 週 多言語社会
- 第 5 週 言語とアイデンティティ
- 第 6 週 言語と文化
- 第 7 週 言語のスタイル
- 第 8 週 言語と性 中間試験
- 第 9 週 非言語コミュニケーション
- 第 10 週 言語政策
- 第 11 週 言語教育
- 第 12 週 バイリンガル教育
- 第 13 週 国際語 (英語)
- 第 14 週 研究発表 1
- 第 15 週 研究発表 2
- 第 16 週 期末試験

4. テキスト

適宜配布する。

参考書

Dorian, Fishman, Fasold, Gumperz, Haugen, Labov, Lambert, Trudgill 等の著作を含む洋書, 並びに同時代の和書。

5. 評価方法

下記のとおり

課題レポート・試験等	50点
期末報告論文	50点
合計	100点

7. その他

学期末に提出する①タームペーパー②言語の音声・音韻や文法・語彙等の事項に関する資料の発掘及び適宜与えられるブックレポートは重要な評価の対象となる。

科目名	英文法特論			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Special lectures in English Grammar			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1、2	前期	1-2	501	月曜日6限、火曜日6限

1. 授業の概要

英語の文法に関する専門的な内容の文献を読み、英文法の諸問題を講義する。

2. 到達目標

研究対象としての「英文法」の諸相に関する知識、関心を深め、興味を抱けるようになる。

3. 授業の計画と内容

- 第1週 Basic Sentence Structure 1
- 第2週 Basic Sentence Structure 2
- 第3週 The Noun Phrase 1
- 第4週 The Noun Phrase 2
- 第5週 The Noun Phrase 3
- 第6週 The Verb Structure 1
- 第7週 The Verb Structure 2
- 第8週 The Verb Structure 3
- 第9週 Modification 1
- 第10週 Modification 2
- 第11週 Modification 3
- 第12週 Modification 4
- 第13週 Clauses: Coordination and Subordination 1
- 第14週 Clauses: Coordination and Subordination 2
- 第15週 Clauses: Coordination and Subordination 3
- 第16週 期末試験

4. テキスト

Berk, Lynn M. (1999) *English Syntax: From word to discourse*. Oxford: Oxford University Press.

参考文献

講義中に適宜紹介する。

5. 準備学習

毎回の授業で指名された受講者が担当範囲を要約し、問題点を指摘するので、各自準備をしておく。

6. 成績評価の方法

- クラスでのプレゼンテーション 50点
- 期末報告レポート（この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する） 50点
- 合計100点

7. 履修の条件

特になし

8. その他

特になし

科目名	英語音声学特論			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Special Lectures in English Phonetics and Phonology			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1、2	前期	1-2	501	月曜日6限、木曜日6限

1. 授業の概要

英語音声学に関して講義し、専門的な知識を教授する。

2. 到達目標

英語の音声学に関する基礎的から発展的知識を身につけ、「音」あるいは「音声」に関わる様々な問題に興味を抱けるようになる。

3. 授業の計画と内容

- 第1週 音と文字
- 第2週 子音の発音 1
- 第3週 子音の発音 2
- 第4週 母音の発音 1
- 第5週 母音の発音 2
- 第6週 意味と音
- 第7週 音声特徴
- 第8週 音節と音の並び方
- 第9週 音韻現象を探る
- 第10週 同化現象
- 第11週 形態音素
- 第12週 アクセント
- 第13週 リズムとイントネーション
- 第14週 プロソディー
- 第15週 まとめ
- 第16週 期末試験

4. テキスト

川越いつえ(1999) 『英語の音声を科学する』 東京：大修館書店

参考文献

窪園晴夫・本間猛(2002) 『音節とモーラ』 東京：研究社出版
窪園 晴夫(2004) 『日本語の音声』 東京：岩波書店

5. 準備学習

毎回の授業で指名された受講者が担当範囲を要約し、問題点を指摘するので、各自準備をしておく。

6. 成績評価の方法

クラスでのプレゼンテーション 50点
期末報告レポート（この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する） 50点
合計100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	英語教授法特論 I			担当教員：与那覇 恵子	
科目名(英語)	Advanced TESOL Theories and Methodology I			メールアドレス：k.yonaha@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	5	513	月 2 火 3

1. 授業の概要

The readings are intended to provide an understanding of the field of language teaching in general and, more specifically, to illustrate the most effective methods of teaching English language to those whose native language is other than English. The readings review the history of second/foreign language teaching, twentieth century trends and developments and the current theories and methods most widely recognized today, as well as the four skill areas of aural comprehension, oral production, reading and writing. Various popular methods of the past and present will be demonstrated and practiced, following which their merits and demerits will be discussed. Students will also learn how to evaluate methods, materials and techniques independently as well as how to work on syllabus development for different level language classes.

2. 到達目標

This course is geared toward the needs of those graduate students planning to pursue a career in teaching English language. The goal of this course is to have those graduate students acquire the full understanding of teaching methods and theories behind them as well as cultivating advanced English skills to teach English.

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 Introductions: course, materials, requirements, etc.
- 第 2 週 Discussion: 1st reading on history of language teaching
- 第 3 週 Discussion on 1st reading, continued, Intro of reading 2
- 第 4 週 Discussion/comparison: readings 1 and 2: content/approach
- 第 5 週 Lecture on EFL language class and follow up discussion
- 第 6 週 Introduction: readings on current theories & methodology
- 第 7 週 Discussion of readings on current theories & methodology
- 第 8 週 Demonstration by professor of selected methods & discussion of merits/demerits/adaptability of methods
- 第 9 週 Introduction of readings on aural comprehension skills
- 第 10 週 Introduction of readings on oral production skills
- 第 11 週 Introduction of readings on teaching reading skills
- 第 12 週 Introduction of readings on teaching writing skills
- 第 13 週 Summary of teaching four skills and discussion
- 第 14 週 Student presentations demonstrating various methods
- 第 15 週 Course Review Final evaluative opportunities

4. テキスト

Principles of Language Learning and Teaching (H. Douglas Brown) Longman
 参考文献
 Materials will be distributed for students to keep in their A4 loose-leaf notebook.

5. 準備学習

Read the chapter assigned beforehand for the discussion.

6. 成績評価の方法 (明記すること。学生が一見して理解できる評価方法にすること。)

Active participation in discussion	40 points
Special project and presentation	35 points
Quizzes and final "FEO" test	25 points

7. 履修の条件：<履修の順序 (Sequence) 又は、履修にあたって前提条件とする科目 (単位修得済科目) 等があればこの欄に記入すること。>

Nothing in special

8. その他

科目名	英語教授法特論Ⅱ			担当教員：渡慶次正則	
科目名(英語)	Advanced TESOL Theories and Methodology II			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	10	512	月曜日6時限

1. 授業の概要

This course is the second semester continuation of the TESOL seminar given during the first semester. The readings and activities are intended to provide an understanding of the field of language teaching in general and, more specifically, to illustrate the most effective methods of teaching English language to non-native English speakers. Popular methods, past and present, will be demonstrated and their merits discussed. Students will learn how to evaluate methods, materials and techniques independently and how to work on syllabus development.

2. 到達目標

1. To be able to understand major English teaching methodologies
2. To integrate teaching theory into practice

3. 授業の計画と内容

- 第1週 Introduction to course, materials, requirements, etc.
- 第2週 Review of topics covered during Pt. I, first semester
- 第3週 Introduction of readings on reading comprehension
- 第4週 Discussion of 1st reading on reading comprehension
- 第5週 Discussion continued and relevant activities demonstrated
- 第6週 Discussion of 2nd reading and practice activities
- 第7週 Review of reading comprehension considerations
- 第8週 Introduction of readings on written composition skills
- 第9週 Discussion of 1st reading on written composition skills
- 第10週 Discussion continued and relevant activities demonstrated
- 第11週 Discussion of 2nd reading and practice activities
- 第12週 Review of written composition considerations
- 第13週 Readings on CLA/L2 LLS, "World Englishes", etc.
- 第14週 Student demonstrations/project reports
- 第15週 Student demonstrations/project reports Final Evaluative Opportunities (course/self/exam)

4. テキスト

"The Practice of English Language Teaching (4th ed.)" by Jeremy Harmer, Pearson Longman

参考文献

"Principles of Language Learning (4th ed.)" by H. Douglas Brown

5. 準備学習

Be sure to read the textbook allotted.

6. 成績評価の方法

Participation: 50 points
 Essay: 50 points
 Total: 100 points

7. 履修の条件：

It is preferable to have taken Advanced TESOL Theories and Methodology I.

8. その他

N/A

科目名	英語教育評価特論			担当教員：渡慶次 正則	
科目名(英語)	Assessment in TESOL			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	10	512	月曜日6時限

1. 授業の概要

4技能の評価方法を中心に、評価の妥当性や信頼性、実用性を話し合う。教室や教室外における現在の評価の問題 (issues) を取り上げる。

2. 到達目標

- (1) 英語能力測定の妥当性、信頼性、実用性についての理論と実践を理解する。
- (2) 既存の代表的な英語能力テストの分析能力を身に着ける。

3. 授業の計画と内容

- 第1週 オリエンテーション、登録、評価についての issues (Chaps 1&2)
- 第2週 Kinds of tests and testing (Chap. 3)
- 第3週 Validity, reliability, practicality (Chaps.4&5)
- 第4週 Achieving beneficial backwash (Chap.6)
- 第5週 Stages of test development (Chap.7)
- 第6週 Common test techniques (Chap.8)
- 第7週 Testing writing (Chaps.9)
- 第8週 Testing oral ability (Chaps.10)
- 第9週 Testing reading (Chaps.11)
- 第10週 Testing listening (Chap.12)
- 第11週 Testing grammar and vocabulary (Chap. 13)
- 第12週 Testing overall ability (Chaps.14)
- 第13週 Tests for young learners (Chaps.15)
- 第14週 テスト ESP の評価
- 第15週 課題提出 (TOEIC, TOEFL iBT, 英語検定をいずれかを分析、評価する。約 4,000 字)

4. テキスト

“Testing for language teachers (2nd ed.)” CPU

参考文献

- 「言語テスト作成法」バックマン&パーマー著、大修館書店
- 「英語教育評価論」金谷憲編、桐原書店

5. 準備学習

事前に、教科書の指定された部分を理解しておく。

6. 成績評価の方法

授業参加態度	30点
課題	70点
合計	100点

7. 履修の条件：

特になし

8. その他

英語能力の高い学生の受講が望ましい。

科目名	リサーチ方法特論			担当教員：渡慶次正則	
科目名(英語)	Research methodology			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	10	512	月曜日6時限

1. 授業の概要

社会科学や人文科学における質的研究と量的研究の基礎的な知識と技能を身に付け、リサーチプロポーザル完成の支援をするリサーチの概論コース。修士論文の構成や論文作成上の留意点を話し合う。

2. 到達目標

- (1) 質的研究と量的研究について理解する。
- (2) リサーチプロポーザルの基本的なコンセプトを構築できる。

3. 授業の計画と内容

- | | |
|------|--|
| 第1週 | オリエンテーション、登録、リサーチ・トピックと概要の発表 |
| 第2週 | リサーチとは、リサーチ・デザイン、リサーチ・クエスション (Chap.1,2,3) |
| 第3週 | 質的研究と量的研究 (Chap.4) リサーチ・プロポーザルの形式 |
| 第4週 | 質的研究 (1) (Chaps.8,9) |
| 第5週 | 質的研究 (2) (Chaps.9,10) 質的研究と量的研究の相違 (宿題提出) |
| 第6週 | 統計分析のプランと方法 (descriptive statistics) (Chaps.5,6) |
| 第7週 | 統計 (t-test, ANOVA, chi-square, Pearson's r, など) (Chaps.6,7) |
| 第8週 | Mixed research design |
| 第9週 | 量的、質的補講、論文構成 (Research Methodology) |
| 第10週 | 量的、質的補講、論文構成 (Results, Discussion)
質的か量的方法によるリサーチ・デザイン (宿題提出) |
| 第11週 | 量的、質的補講、論文構成 (Literature Review) |
| 第12週 | 量的、質的補講、論文構成 (Introduction, Conclusion) |
| 第13週 | 統計処理 (Excel, SPSS) リサーチプロポーザルの提出 (宿題提出) |
| 第14週 | リサーチ・プロポーザルの発表 (1) |
| 第15週 | リサーチ・プロポーザルの発表 (2) |

4. テキスト

“Introduction to Social Research (2nd ed.)” By Keith Punch, SAGE 社

参考文献

「社会調査法入門」 盛山和夫著、有斐閣ブックス

5. 準備学習

テキストの課題を事前に読んでおく。

6. 成績評価の方法

参加	20点
質的・量的研究の相違 (課題)	10点
質的か量的研究方法によるリサーチ・デザイン	20点
リサーチ・プロポーザル	50点
合計	100点

7. 履修の条件:

前期に、「英語教育評価特論」を受講していることが望ましい。

8. その他

特になし。

科目名	理論言語学特論			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Special Lectures in Theoretical Linguistics			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1. 2	後期	1-2	501	月曜日6限、木曜日6限

1. 授業の概要

理論研究の対象としての日本語に関する知識・関心を深めるために日本語の様々な現象について教授する。

2. 到達目標

理論言語学に関する方法論を身につけ、主に日本語に関する知識・関心を深め、分析の方法論を身につける。

3. 授業の計画と内容

- 第1週 はじめに：研究対象としての日本語
- 第2週 語順Ⅰ
- 第3週 語順Ⅱ
- 第4週 格助詞の意味と用法Ⅰ
- 第5週 助詞の意味と用法Ⅱ
- 第6週 助詞の意味と用法Ⅲ
- 第7週 助詞の意味と用法Ⅳ
- 第8週 副助詞Ⅰ
- 第9週 副助詞Ⅱ
- 第10週 取り立て詞Ⅰ
- 第11週 取り立て詞Ⅱ
- 第12週 語順と意味解釈Ⅰ
- 第13週 語順と意味解釈Ⅱ
- 第14週 語順と意味解釈Ⅲ
- 第15週 多言語との比較・対照とそこからわかること
- 第16週 学期のまとめ

4. テキスト

Kuno, Susumu (1973) *The Structure of the Japanese Language*. Cambridge, MA: MIT Press.

主要参考文献

- 奥津敬一郎・沼田善子。杉本武(1986)『いわゆる日本語助詞の研究』東京：凡人社
- 野田尚史(1996)『「は」と「が」』東京：くろしお出版
- 他、適宜授業中に紹介する。

5. 準備学習

毎回の授業でテキストの担当範囲を決め、内容を要約し問題点を指摘するので、予め準備しておく。

6. 成績評価の方法

- クラスでのプレゼンテーション 50点
- 期末報告レポート（この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する） 50点
- 合計100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	比較教育文化思想特論			担当教員：嘉納英明	
科目名(英語)	Comparative Education			メールアドレス：kano@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	受講希望人数	研究室	オフィスアワー
2	1, 2	後期	3	510	月曜日 10:30~12:00 火曜日 10:30~12:00

1. 授業の概要

本授業では、人間の成長・発達に大きな影響を及ぼす教育的営みについて考える。教育という営みは、社会全体の諸事象と密接に関わるものであるから、授業の内容は、まず現代に至るまでの社会における子ども観の変容を概観する。次に、近代の公教育確立以降の教育制度改革と教育権利論、生涯学習社会の到来を導いたラングランの思想を読み解き、今後の日本教育の進むべき方向を考える。

2. 到達目標

- ①子ども観の変容の過程について理解することができる。
- ②公教育制度の成り立ちやそれに関わる教育思想について理解することができる。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 人間形成と教育、人間とは何か、教育の目的
- 第 3 週 子どもの発見—ルソーの『エミール』—
- 第 4 週 現代教育の思想—新教育運動の起こり—
- 第 5 週 教育改革への志向—デューイ—
- 第 6 週 近代教育に対する批判的まなざし—イリッチとフレイレ—
- 第 7 週 小さな大人から子どもへ—アリエスの『<子供>の誕生』—
- 第 8 週 近代公教育と義務教育制度
- 第 9 週 教育の義務から教育を受ける権利へ
- 第 10週 義務教育制度の今日的課題—通学区域の弾力化—
- 第 11週 学校選択制と教育バウチャー制度
- 第 12週 堀尾輝久『現代教育の思想と構造』を読む
- 第 13週 生涯学習社会に向けて—ラングラン—
- 第 14週 現在日本における生涯学習社会と学習機会
- 第 15週 学期末試験

4. テキスト・参考文献

特定のテキストはない。ただし、毎回、資料（学術論文等を含む）を配布する。
参考文献は、授業の内容に応じて、適宜、紹介する。

5. 準備学習

講義の中で扱う文献は事前に配付するので、熟読しておくこと。

6. 成績評価の方法

- ①関連する文献の読み取り、討論への参加 20点
 - ②講義内容に関するレポート 30点
 - ③学期末試験の結果 50点
- 合計100点

7. 履修の条件

- ①学群・学部の教職科目を複数履修していることが望ましい。
- ②日本や沖縄の教育、歴史、文化に対して関心を持つ者を歓迎する。

8. その他

自己の教育体験・教育事情を紹介してもらい、講義内容と重ねて議論することもあります。

科目名	琉球歴史学特論			担当教員：井上秀雄	
科目名(英語)	Ryukyu History			メールアドレス：	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	2～3	非常勤控室	講義終了後20分程度

1. 授業の概要

琉球王国は、日本の歴史の中での地域史として位置づけることは出来ない。

東アジア全域にわたって交易した独立国家であった。この講義では、中国をはじめとする東アジア全域との交易の歴史を、「歴代宝案」という外交文書を解読しながら理解する方法をとる。

2. 到達目標

琉球王国が東アジア全域にわたって平和外交を行っていたことを理解することによって、今に生きる私達に教訓として学びとり、世界に向けて活躍する人材になってほしいことを目標とする。

3. 授業の計画と内容

- 第1週 東アジアにおける琉球王国の位置
- 第2週 琉球王国大交易時代の意義と課題
- 第3週 「万国津梁之鐘」から見た琉球王国
- 第4週 琉球王国と中国との交流（朝貢）・・・①
- 第5週 " " ②
- 第6週 " " ③
- 第7週 " " ④
- 第8週 琉球王国と朝鮮との交流 ①
- 第9週 " " ②
- 第10週 琉球王国とシャム（タイ国）との交流.....①
- 第11週 " " ②
- 第12週 " " ③
- 第13週 琉球王国とジャワとの交流
- 第14週 琉球王国とマラッカとの交流
- 第15週 琉球王国と安南（ヴェトナム）との交流

4. テキスト

原文史料等をプリントして配布する。特に外交文書の歴代宝案をコピーする。

参考文献

特になし。講義の中で紹介する。

5. 準備学習

琉球王国の東アジア交易関係を理解しておくこと。

6. 成績評価の方法（明記すること。学生が一見して理解できる評価方法にすること。）

発表（30点）＋ディスカッション（30点）＋課題レポート（40点）

7. 履修の条件：＜履修の順序（Sequence）又は、履修にあたって前提条件とする科目（単位修得済科目）等があればこの欄に記入すること。＞

特になし

8. その他

特になし

科目名	沖縄地域文化研究特論			担当教員：中村 誠司 (学外)	
科目名(英語)	Special Issues in Culture Studies of Okinawa				
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	5	非常勤講 控室	火曜日 13時～18時

1. 講義内容・到達目標・準備学習

受講学生のこれまでの「沖縄の歴史文化」に関する基本学習・知識を磨きなおし、その深化を図る。講義は、『沖縄の歴史と文化』（沖縄県教育委員会、2000年）をテキストに構成・展開するが、地域イメージと理解、研究方法を具体化するため名護・やんばるの事象・事例を積極的にとりあげる。さらに、地域文化の現場・現物経験の重要性を考え、〈野外講義〉として資料機関見学、地域巡見を設定する。

受講学生は、各回のテーマについて「テキスト・講義ノート」を作成する。

2. 到達目標

授業計画および受講生の関心に対応して、各章の内容を要約しレポート（ノート）を作成することで、内容理解の確化を図る。あわせて小研究のテーマを発見する。

3. 講義の計画と内容

- 第1回 「沖縄の歴史、地域文化」への視点
- 第2回 沖縄の位置と自然・風土
- 第3回 第1部・1 沖縄の歴史：旧石器時代からグスク時代
- 第4回 第1部・2 琉球王国時代・1（古琉球）
- 第5回 第1部・2 琉球王国時代・2（近世琉球）
- 第6回 第1部・3 近代の沖縄・沖縄戦
- 第7回 第1部・4 戦後アメリカ統治時代
- 第8回 第1部・5 復帰後の沖縄
- 第9回 第2部・1 沖縄文化の地域特性と多様性
- 第10回 第2部・2 村落の住まいと風景
- 第11回 第2部・3 祭りと年中行事
- 第12回 第2部・4 食文化
- 第13回 第2部・5 芸能
- 第14回 第2部・6 伝統工芸
- 第15回 第2部・7 沖縄地域文化の将来

※ 以上の室内講義に加え、野外講義（見学・巡見）を2回設定する。

※ 期末筆記試験は実施しない。講義ノート、小研究レポートを課す。

4. テキスト

『沖縄の歴史と文化』 沖縄県教育委員会 2000年 ※コピー提供

『The History and Culture of Okinawa』 沖縄県教育委員会 2000年

参考文献 ※コピー提供

『琉球・沖縄史 ジュニア版』 新城俊昭 東洋企画 2008年 1500円

『名護市5000年の記憶』 名護市 2000年 500円

『新大宜味村史 シマジマ・ビジュアル版』 大宜味村 2014年 1000円

5. 準備学習

各章は、主題は大きいですが、文章量は少ない。各章の要約ノート作成が準備学習である。

6. 成績評価の方法

レポート1（テキストノート） 70点

レポート2（テーマ小研究） 30点

合計 100点

6. その他

特になし。

科目名	東南アジア文化特論			担当教員：山田 均	
科目名(英語)	Seminar on SEA culture			メールアドレス：yamathai@ona.att.ne.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前学期	10	509	月5、水5

1. 授業の概要

東南アジアを中心にアジアの文化事象について論じる。文化事象のどの部分に焦点を当てるかは受講者の興味関心による。当面は、言語を使った表現、詩、演劇、芸能などを扱う。「読む文学」というより「聞く文学」「語る文学」「見る文学」であるから、毎回必ず視聴覚教材を使う。もちろん、参加学生の興味と研究上の必要から、話し合っただけのテーマを選択することもある。

2. 到達目標

アジアの文学や演劇、音楽などについて総合的な知識を養い、比較・鑑賞できる素地を作る。

3. 授業の計画と内容

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 東アジアの芸能について
- 第3週 古代の芸能（雅楽、神楽、祝詞、記紀歌謡）
- 第4週 中世の芸能（能、狂言、万歳、声明、念仏、平曲）
- 第5週 武家の芸能（謡曲、箏曲）
- 第6週 町人の芸能（歌舞伎、常磐津、清元、長唄、新内）
- 第7週 朝鮮、満州、モンゴルの芸能
- 第8週 中国の芸能
- 第9週 タイの詩文と芸能
- 第10週 ベトナムの詩文と芸能
- 第11週 マレー世界の詩文と芸能
- 第12週 台湾・ポリネシアの詩文と芸能
- 第13週 インド・イランの言語芸術
- 第14週 スリランカ、ネパールの詩文と芸能
- 第15週 まとめ

4. テキスト

プリントを用意する。音源や映像資料は講師が用意する。
参考文献がある場合はその都度指示する。年表と地図帳を手元に用意してください。

5. 準備学習

とくになし

6. 成績評価の方法（明記すること。学生が一見して理解できる評価方法にすること。）

授業への参加度 30点
発表・レポート 50点
ノート 20点

7. 履修の条件：

とくになし

8. その他

受講者の専門分野や研究テーマに利益となるような内容にする。積極的に自分の研究と関連させて理解を深めてほしい。楽しい時間になりたいと考えている。

科目名	中南米文化特論			担当教員：住江 淳司	
科目名(英語)	Latin-American Cultures			メールアドレス：j.sumie@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定 人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	505	火曜日：10:30～12:10 木曜日：10:30～12:10

1. 授業の概要

ラテンアメリカは、日本から地理的に最も遠いという理由で馴染みの浅い地域でありました。しかし、世界的に見た場合そのプレゼンスは大きいものです。たとえば経済の規模は東アジアに匹敵しますし、混血社会は対立をはらみながらも人間社会の一つのあるべき姿を代表としています。今日の民族的、宗教的な地域紛争の解決のモデル地域になる可能性を含んでいるかも知れません。また、ラテンアメリカは数多くの独創性に富んだ思想、文学、芸術を生む舞台でもあります。政治、経済、社会研究においても多くの優れた成果を生み出してきました。つまり、我々はラテンアメリカから多くのことを学びえるのです。

2. 到達目標

修士論文を執筆する上で、中南米に関する基本的な知識の取得を到達目標とする。

3. 講義予定

- 第1週 講義概要の説明
- 第2週 ラテンアメリカの自然と人
- 第3週 ラテンアメリカの開発体制
- 第4週 ラテンアメリカの政治と民主化
- 第5週 輸入代替工業化とインフレーション
- 第6週 対外債務累積問題
- 第7週 ラテンアメリカの土地制度
- 第8週 労働市場の二重化とインフォーマル・セクター
- 第9週 ラテンアメリカの所得分配
- 第10週 工業化と都市化による社会生活の変化
- 第11週 社会格差とスラム問題
- 第12週 カトリック教会と解放の神学
- 第13週 悪化する都市環境
- 第14週 小さな政府（民主化と地方分権化）
- 第15週 ネオリベリズム

4. テキスト

小池洋一著 『図説ラテンアメリカ』、日本評論社、1999年。

参考書

国本伊代・中川文雄編著 『ラテンアメリカ研究への招待』、新評論、1997年。

5. 準備学習

事前に、図書館で中南米に関する基本的文献をレファレンスコーナーで最低10冊探し熟読する。

6. 評価方法

期末試験	70点
レポート	30点
合計	100点

7. 履修の条件

特になし

8. その他

科目名	第2言語習得特論			担当教員：渡慶次正則	
科目名(英語)	Second Language Acquisition Theory			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	10	512	月曜日6時限

1. 授業の概要

過去の研究成果から次の点を学ぶ

- (1) 第2言語がどのような過程で習得され、どんな種類のインプットやインタラクションが習得につながるのか
- (2) 社会的な要因と第2言語習得についての研究成果を学ぶ。
- (3) 第2言語習得の個人差はどのようにして生じるか。

2. 到達目標

英語学習者の習得についての基本的な理論や研究成果を理解できる。

3. 授業の計画と内容

- 第1週 オリエンテーション、登録、言語教授法と第2言語習得の歴史
- 第2週 Second Language learning: key concepts and issues (Chap. 1)
- 第3週 The recent history of second language learning research (Chap. 2)
- 第4週 The recent history of second language learning research (Chap. 2)
- 第5週 The Universal Grammar (Chap.3)
- 第6週 Cognitive approaches to SLL (Chap.4)
- 第7週 Functional/pragmatic perspectives on SLL (Chap.5)
- 第8週 Input and interaction in SLL (Chap.6)
- 第9週 Input and interaction in SLL (Chap. 6)
- 第10週 Socio-cultural perspectives on SLL (Chap. 7)
- 第11週 Sociolinguistic perspectives (Chap.8)
- 第12週 Conclusion (Chap. 9)
- 第13週 Individual differences in SLL
- 第14週 Focus on form in SLL
- 第15週 Complexity, accuracy and fluency

4. テキスト&参考文献

“Second Language Learning Theories” (2nd edition) Mitchell & Myles ARNOLD

5. 準備学習

テキストを事前に読んで準備をしておく。

6. 成績評価の方法

講義への参加	30点
課題 (Input, interaction, acquisition についてレポート)	70点
合計	100点

7. 履修の条件:

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	琉球・沖縄歌謡特論			担当教員：平山良明	
科目名(英語)	Ballads of the Ryukyus			メールアドレス：	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定 人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	3	非常勤控室	

1. 講義内容

- ①日本文学に位置する沖縄文学の秀れた発想法・表現法について学ぶ
- ②『おもろさうし』の研究を通して、文学の誕生、展開、それらの生活化について学ぶ
- ③『おもろさうし』、及び南島歌謡の研究を通して、古代人の神概念、世界観を考える
- ④『おもろさうし』、及び南島歌謡の研究を通して、現代沖縄語の成立過程を学ぶ
- ⑤『おもろさうし』及び南島歌謡を総合科学として位置づけ、深い理念を求めていく

2. 到達目標

- ①沖縄語古典（おもろ語）を学ぶ基礎的な力をつける。
- ②沖縄の古謡を学び、沖縄の文化の伝統、古謡に親しみ広く沖縄文化に親しむ力をつける。

3. 授業の計画と内容

- 全15週 毎時資料を提供する・Q&A方式で講義を進めるように配慮する)
- 第1週 登録とオリエンテーション（履修の調整・講義内容・自己紹介）など
 - 第2週 沖縄（琉球）語の特質（オモロ及び南島歌謡学習の為の基礎的事項の確認）
 - 第3週 『おもろさうし』の全体像について、基礎的理解と研究の方法を学ぶ。
 - 第4週 『おもろさうし』的背景（田島利三郎・伊波普猷）について学ぶ
 - 第5週 『もろさうし』成立と諸本、内容の概略
 - 第6週 『もろさうし』表記・表現法（口蓋化現象と実際①・具体例を提示）
 - 第7週 『ろさうし』表記・表現法（口蓋化現象と実際②・具体例を提示）
 - 第8週 『おもろさうし』のモチーフの展開（必要に応じ中間試験）
 - 第9週 『おもろさうし』研究各論①及び八重山古謡概論
 - 第10週 『おもろさうし』研究各論②及び宮古島古謡概論
 - 第11週 『おもろさうし』研究各論③及び沖縄本島離島古謡概論①
 - 第12週 『おもろさうし』研究各論④及び沖縄本島古謡概論②
 - 第13週 『おもろさうし』研究各論⑤及び奄美大島古謡概論、「おもろさうし」及び南島古謡研究のまとめ
 - 第14週 まとめ（総合的評価としての琉球古典音楽の演奏・島袋功氏、島袋安行氏を講師とする）
 - 第15週 学期末試験（総合的評価として実施）

4. テキスト

平山良明『おもろさうし』：(研究ノート)（むぎ社・未刊）：おもろ研究会『おもろを歩く』（平山良明、波照間永吉）他編（琉球書房刊）など

参考書

- ① 仲宗根政善『琉球方言の研究』（新泉社・1987年）
 - ② 高橋俊三『おもろさうしの国語学的研究』（武蔵野書院・1991年）
 - ③ 玉城政美『南島歌謡論』（砂子屋書房・1991年）
 - ④ 沖縄古語大辞典編集委員会『沖縄古語大辞典』（角川書店・1997年）
 - ⑤ 波照間永吉他編『定本おもろさうし』（平成13年）
 - ⑥ おもろ研究会編（平山良明、波照間永吉他）編『おもろを歩く』（平成25年）
- その他の参考図書については、講義の中で適宜紹介する。

5. 準備学習

①日本語と沖縄語の特徴長を学ぶ。沖縄語が理解出来、それを通して、沖縄の歌謡が理解し、その文化を生きる力をつけるよう、努力する。

6. 評価方法

活動状況	30点
課題レポート	20点
期末テスト	50点
合計	100点

7. 履修の条件

8. その他

特になし
必要に応じ対応する。